

へ、自らの存在を主張せず自然に流れていき身を置くという水の性質を、最高の善と捉えた教えです。

私たちが求める道は一つ、原点に帰ることです。原点に戻るということは改めて出発点に戻ることであり、所員全員で取り組んでいこうという思いを込めて上善如水をテーマにしました。これは初夢から生まれたものです。

このようなテーマを設定し活動していく際の私の欠点は、所員によると「優しすぎる」とのことです。手相をみてもらった際にも指摘されました。そんな私を所員全員が支えてくれ、50年間を過ごすことができました。本当に感謝しています。

今後は原点に回帰し、所員全員が上善は水の如しの精神で同じ方向に向かって進んでいきます。その際は、どのような展開になるかを想定しておくことも重要です。PESとしてどんな変化が起きるかが問題です。2021年までは仕事の内容についてそれほど真剣に考えずに受注していました。経営を維持するためという意味もあります。

しかし50年を契機に、いま自分がやりたいと思う仕事を選択して受注するように発想を転換しました。甘えないで頑張っていこうと社員に訴え、所員を激励しています。こうした取組は、かなり浸透してきたと思います。

これからのPESの夢は、グローバルスタンダードからローカルスタンダード確立に貢献することです。グローバルスタンダードというのは要するに工業化であり、インターナショナルスタンダードです。これに対してそれぞれ地域で異なるローカルスタンダードは人間愛が根本にある基準です。

焦点を当てているのはアジアです。タイにはタイ

のスタンダードがありマレーシアにはマレーシアのスタンダードがあります。各国でそれぞれ異なるのです。こうした違いを戦略として積極的に利用した提案をアジア各国に展開してまいります。

63

上善如水。水善利萬物而有争(静)。居衆人之所亞(悪)。故幾於道矣。

上善は水の如し。水は善く万物を利して而も静あり。衆人の悪む所に居る。故に道に幾し。⁸

半切二行

